Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-03

Factors influencing work engagement among psychiatric nurses in Japan

Mukaihata, Tsuyoshi

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2020-03-25

(Date of Publication)
2021-03-25

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第7741号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007741

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　看護学

専攻分野　生活支援開発看護学

氏　　名　向畑　毅

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること。）
Factors influencing work engagement among psychiatric nurses in Japan
（日本における精神科看護師のワーク・エンゲージメントに影響を及ぼす要因）

論文内容の要旨（1,000 字～2,000 字でまとめること。）

【背景】精神科看護師は、患者の精神症状による不穏行動・自殺企図および患者からの攻撃性など、精神科に特徴的な出来事に日々対応しなければならない。近年では、入院患者の地域移行推進や患者の高齢化など急激な変化にも直面している。これらの課題に取り組むために精神科看護師には高いパフォーマンスが求められている。ワーク・エンゲージメントは、労働者の仕事に対するポジティブな心理状態であり、労働者の様々なパフォーマンスに貢献することが報告されている。精神科看護師が高いパフォーマンスを発揮するにはワーク・エンゲージメントの関連要因を明確にし、制御することでワーク・エンゲージメントを向上させることが有効と考える。しかし、精神科看護師のワーク・エンゲージメントに影響を及ぼす要因は明らかになっていない。そこで本研究では仕事要求・資源理論を用いて「仕事資源および個人資源が精神科看護師のワーク・エンゲージメントに正に影響を及ぼし、また仕事要求が高いほどその正の影響が強まる」という仮説モデルを作成した。

【目的】仮説を検証することで精神科看護師のワーク・エンゲージメントに影響を及ぼす要因を明らかにする。

【方法】日本の近畿地方にある 9 つの精神科病院に勤務する看護師 730 名を研究参加者とし、自記式質問紙を用いた横断調査を実施した。調査期間は 2018 年の 8 月から 10 月であった。調査項目は、属性、仕事資源(報酬・裁量権・上司のサポート・同僚のサポート・医師との協力)、個人資源(情動知能の下位次元である、自分の感情理解、他者の感情理解、感情調整、感情の利用)、仕事要求（患者の看護師に対するネガティブな態度）およびワーク・エンゲージメントであった。尺度として、報酬を the effort-reward imbalance questionnaire、裁量権、上司・同僚のサポートを the job content questionnaire、医師との協力を the practice environment scale、情動知能を the Wong and Law emotional intelligence scale、ワーク・エンゲージメントを the Utrecht work engagement scale によって測定した。分析では、ワーク・エンゲージメントを従属変数、仕事要求を調整変数、その他を独立変数とする階層型重回帰分析を実施した。変数投入は、まず属性(step 1)、続いて仕事資源・個人資源・仕事要求(step 2)、最後に交互作用項(仕事資源×仕事要求、個人資源×仕事要求) (step 3)の順で実施した。統計解析ソフトは R version 3.6.1 を用い、有意水準を 0.5%以下とした。倫理的配慮として、本研究は神戸大学大学院保健学研究科倫理審査委員会の承認を得ている。

【結果】469 部の調査用紙が回収され、その内、欠損値のない回答は 425 部であった(有効回答率 58.2%)。研究参加者の年齢は 42.12±11.43、精神科病院勤務の経験年数は 11.45±9.13 であった。性別は女性が 66.82%、資格は正看護師が 83.76%、病棟の種類は急性期病棟が 36.71%であり慢性期病棟が 40.94%であった。仮説検証の結果、報酬(β=0.20; p<0.001)、上司のサポート(β=0.10; p=0.038)、医師との協力(β=0.13; p<0.01)、他者の感情理解(β=0.12; p=0 011)、感情の使用(β=0.35; p<0.001)、報酬×仕事要求(β=0 10; p=0.028)、上司のサポート×仕事要求(β=0.10; p=0.019)がワーク・エンゲージメントに有意に関連していた。

【結論】精神科看護師のワーク・エンゲージメント向上のため、教育的観点からは、管理者は看護師の共感性(他者の感情理解)や主体的に自分のやる気を奮い立たせる能力(感情の使用)を向上させるための教育プログラムを取り入れることが有効と考えられる。職場環境改善の観点からは、精神科病院の経営責任者はスタッフの納得できる報酬を考慮し、管理者は部下の状態に合わせた必要なサポートを実施し、そして多職種との協力関係の構築に努める必要がある。しかも、報酬と上司のサポートは、看護師が患者からのネガティブな態度に直面している(仕事要求が高い)時に特にワーク・エンゲージメント向上に効果を発揮するため、経営者と管理者は、看護師と患者との関係に注意を払いながら、効果的な方略を検討することが重要である。(1857 字)

指導教員氏名：グライナー智恵子

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	向畑　毅		
論文題目	Factors influencing work engagement among psychiatric nurses in Japan (日本における精神科看護師のワーク・エンゲージメントに影響を及ぼす要因) （外国語の場合は，その和訳を併記すること。）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教授	グライナー智恵子
	副　査	教授	塩谷英之
	副　査	教授	千葉理恵

要　旨

ワーク・エンゲージメントとは、労働者の仕事に対するポジティブな心理状態であり、労働者のパフォーマンスに貢献することやその関連要因が研究されているが、精神科看護師では十分に検討されていない現状にある。本研究の目的は、精神科看護師のワーク・エンゲージメントに影響を及ぼす要因を明らかにすることである。近畿地方にある９つの精神科病院に勤務する看護師 425 名を研究対象者とし、自記式質問紙を用いた横断調査を実施した。文献検討等により、属性、仕事資源(報酬・裁量権・上司のサポート・同僚のサポート・医師との協力)、個人資源(情動知能の下位次元である、自分の感情理解、他者の感情理解、感情調整、感情の利用)、仕事要求（患者の看護師に対するネガティブな態度）およびワーク・エンゲージメントを調査項目として設定した。ワーク・エンゲージメントを従属変数とする階層型重回帰分析を実施し、報酬、上司のサポート、医師との協力、他者の感情理解、感情の使用、報酬×仕事要求、上司のサポート×仕事要求がワーク・エンゲージメントに有意に関連していることを明らかにした。本分析結果から、精神科看護師のワーク・エンゲージメント向上のためには、看護師の共感性やセルフモチベーションを向上させること、看護師が患者からのネガティブな態度に直面している時には看護師の状態に合わせたサポートを実施することの重要性が示唆された。

本研究は、特に精神科看護師のワーク・エンゲージメントに対する仕事要求の調整効果を明らかにした点に独創性があり、看護学分野の発展に寄与する価値ある知見が得られたと認める。よって学位申請者の向畑毅は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。

Factors influencing work engagement among psychiatric nurses in Japan.

Tsuyoshi Mukaihata, Hirokazu Fujimoto, & Chieko Greiner

Journal of Nursing Management. 2019 Dec 6.doi:10.1111/jonm.12923.[Epub ahead of print]